

こどもの病気対策法^⑬

ー伝染性紅斑（リンゴ病）ー

小宅医院 小 宅 民 子

伝染性紅斑とは、ヒトパルボウイルスB19と呼ばれるウイルスに感染することで引き起こされるウイルス感染症です。幼児や学童に多く、両頬がリンゴのように紅くなることから、リンゴ病と呼ばれることもあります。大分県では、今年9月下旬からリンゴ病の患者数が増え、4年ぶりに流行がみられました。

リンゴ病は10～20日の潜伏期間の後、両頬に境界鮮明な紅い発疹が現れます。手や足にもレース様の発疹が現れ、体幹部（胸腹背部）にもみられることがあります。これらの発疹は1週間前後で消失します。発熱はあっても軽度です。成人では関節痛や頭痛などの症状がみられますが、ほとんどは合併症を起こすことなく回復します。

感染経路は、くしゃみや咳などによる飛沫感染やウイルスのついた手や鼻に触つてうつる接触感染です。リンゴ病の特徴として、発疹発現の7

～10日程前がウイルスの排泄量が最も多く、発疹が現れたときにはウイルスの排泄はほとんどなく、他者への感染力はほとんどないといわれています。

リンゴ病の特効薬はなく、対症療法（症状を和らげる治療）が中心となります。ワクチンもなく、感染の予防が重要です。しかし、発疹が出現した時には感染力はほとんどなく、ウイルス排泄時期には特徴的な症状を示さないため、診断に至らず、効果的な二次感染予防策がありません。流行期には手洗い、うがい、マスクの着用を心がけましょう。

妊婦が感染すると胎児に影響が及ぶことがあります。流行期には感冒様症状の人に近づくことは避けましょう。また、リンゴ病に感染した人は妊婦に接触しないよう注意して下さい。

伝染性紅斑（リンゴ病）の5つのポイント

- ・ ヒトパルボウイルスB19によるウイルス感染症。
- ・ 両頬の境界鮮明な紅い発疹が特徴。
- ・ 感染力が強いのは発疹が出現する7～10日程前・発疹出現時には感染力はほぼない。
- ・ 特効薬はなく、予防が重要。
- ・ 妊婦に感染すると胎児に影響が及ぶことがある。

